

なぜ法王ベネディクト 16 世は退位させられたか？

彼は脱進化論、「インテリジェント・デザイン」の推進者だった

Greatchain

2018/07/05

これは、歴史上その例がほとんどないことから見て、不可解な事件だった。しかし、ローマ法王ベネディクト 16 世は、自分の意志で退位したのでなく、クリントン、オバマ、ソロス、ポデスタといった左翼サタン革命軍の仕組んだ、「バチカンの春」と呼ばれる「政権交代」クーデタによって、追い出されたことが明らかになった。

まず、そもそも、そんなことができるのか、と言う人のためには、SOTN の解説するように、米軍は、NWO 陰謀団の軍事部門 (arm)、バチカンはその宗教部門、City of London は、その金融部門だということを、頭においていただきたい。後釜のフランシスは、忠実に、プーチン大統領の言う通り「サタンのために働いている」。

4 日の記事では、なぜ NWO エリートが、ベネディクトをそれほど嫌ったのかについては、説明がなく、彼は、伝統的な教義と価値を護る保守的な人間だったとしか言っていない。実は彼は、エリートの対民衆戦略上、なくてはならない進化論を否定する「危険人物」だったのではないと思われる。ローマ法王庁は、1996 年のヨハネ-パウロ 2 世の進化論容認発言に見られるように、奇妙な方向を取り始めいた。その言葉は曖昧なので引用はしないが、最も断固として突っぱねるはずの立場の者が、ダーウィン進化論を容認するよう見えたので我々は驚いた。我々は、法王は頭が悪いのだろうと考えた。が、どうやら、そうではなかった。父ブッシュをはじめ、アメリカの主要な政治家がこぞって、New World Order という言葉を連邦議会で口にするようになったのは、1991 年ころである。この頃からバチカンに対する圧力、つまり「革命」への準備が始まっていたと考えても、おかしくないだろう。

ダーウィン進化論などというものは、とうの昔に耐用年数が切れている。人類があるとき、思い上がって、唯物論でこの宇宙を説明してみせると豪語するところまではよい。しかし、その証拠がどうしても出てこないというのに、これを手放さないというのは異常ではないか？ 誰かこれを必要としている者（権力者）があると考えねばならない。

数年前、私は、ある世界の葬儀の様式を論ずる論文集の書評を委託された。中で、忘れられないのは、「人間は宇宙のゴミだ」というダーウィン進化論からの（正しい）帰結を信じているかのような論文だった。これは科学的事実ではない。人間がそのように見える前提に立てば、そのように見えるということにすぎない。人間の行動はすべて下等な性欲に還元できる、という思想もそうである。ただ戦略上、これを必死に我々に植え付けようとする者たちがいる。人間の尊厳とか、命の尊さなどというものを、虚構だと証明する根拠を、欲しがっている者たちがいる。

世紀の変わり目ころから、「インテリジェント・デザイン」(ID) と呼ばれる、ダーウィン進化論に対する代替理論が、アメリカで提唱され始めた。私はこれを嗅ぎ付け（不思議なアンテナで知り）、ほとんどその生まれたての揺籃期（2003年1月）から、かなりの成長期（2008年12月）に至るまで、6年間にわたって、ある雑誌にその解説を連載させてもらった。これはダーウィン進化論が疑似科学であるのに対して、真正の科学であり、いわゆる「神の存在証明」ではなく、神を前提とする理論でもなく、何らかの創造するインテリジェンスの存在を、普通の科学的分析や論証の方法を用いて、「指し示す」ものである。

「IDとはどういうものか？」については、「創造デザイン学会」www.dcsociety.org という、このような思考法（これだけではない）を普及させるためのウェブサイトの、同名の項目を読んでいただきたい。これは10年ほど前に書いたものだが、一字一句変更する必要を認めない。科学とはそういうもので、その前提や基礎は何年たっても変わらない。リチャード・ドーキンスなどは、晩年に、『利己的遺伝子』を指して、今の私ならあんな風には書かないと言い、更には、神の働きという考えもありうる、などと言った。しかし彼の正直さは買うべきで、デザインということのありえないこの世界に、あたかもデザインされたかのような見事なものがあふれている。これはすべて「見事なまがいもの (simulacrum) なのだ」と言った。気の毒なほど正直ではないか！

私の6年間の観察と執筆の間に遭遇したのは、IDに対する驚くべき迫害であった。新しいものは抵抗を受ける。しかしこれは常識を超えている。停滞を打ち破る、これほど魅力的な、納得できる理論はなく、膨大な量の著書が現れ（反論も含め）、ベン・スタインの映画『追放——インテリジェンスは許されない』が評判になり、社会現象にまでなったのに、「インテリジェント・デザイン」があまり知られていないのは、なぜか？ その理由が最近ようやくわかってきた。それは、この新しい理論が、いわゆる「政治的に正しくない」すなわち、「ビッグブラザー」の気に入らない思想として、口にしてはならないものだからである。わかりやすく言うと、ケムトレールのことは誰も口にしてはならず、現に誰も口にしないのと、同じである。逆に言えば、「インテリジェント・デザイン」を恐れる者たちがいる、ということである。

そこでやっと、ベネディクト 16 世の出番となる。この人も、おそらく我々と同じように、宗教家の言う（したがって、あまり信用されない）神でなく、歴然と科学者の証明する神を求めていた。そして、たぶん私と同じようにアンテナが働いて、ID の存在を感知したものと思われる。彼は仲間の有志とともに、ID の勉強会を、法王庁でやっているというニュースが伝わってきた。それ以上、具体的には知らない。しかし、元々大学教授であり、厳密に考える習慣をもったヨーゼフ・ラツィンガー氏には、これは魅力的だったにちがいない。彼には、この理論のポイントである、そして反対派が故意に誤解して伝える、神を前提とする理論でないという事実が、すぐに分かったはずである。宗教と科学が対立するのではなく、有神論科学と無神論科学が対立していることも、ID を通じて理解したのであろう。

これも想像にすぎないが、彼は、少なくとも法王庁内に出回る、いくつかの論文を書いたであろう。そしてこれが、この法王は、ID などという馬鹿げた、評判の悪い理論にかぶれ、これを宣伝しようとしているという、噂を生んだかもしれない。NWO 陰謀団は、ひょっとしたら、この理論の本来の価値を理解していたかもしれず、あるいは単に噂を信じて、これは神の存在から出発して、科学の粉飾を施しただけの、くだらぬ理論だと思っていたかもしれない。しかし、それはどちらでも関係がなかった。問題は、ベネディクトのような知的な法王が、科学的根拠のある、実在する神を、世界の信徒に向って説くことだった。万一、そんなことになれば、その影響ははかりしれない。彼ら NWO の、サタン教だけを宗教として認める、一政府一宗教支配計画は、大きな打撃を受けるだろう。ベネディクトは何としても追放しなければならない……。このような配慮が働いたと想像することができる。そしてそれは成功した。

2つばかり参考資料を添付する。最初のは、最近、私の書いたもので、最後の3項目が役立つだろう。2番目は、最近、友人から送っていただいたもので、この研究グループは、ID グループとは別だと思われる。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180320.pdf>

<https://indeep.jp/dna-barcoding-survey-reveals-new-evolution-theory/>